

蟻通

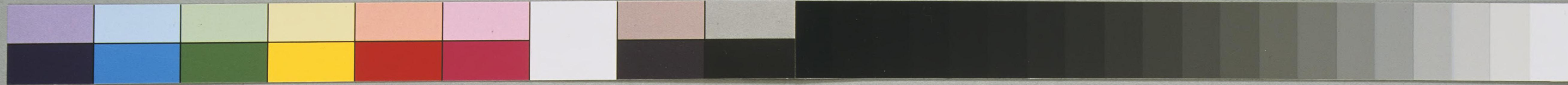
観世流謡曲 元和卯月本

03-001

3 蟻通

国立国会図書館





第
 和歌乃之方を道とて
 玉津嶋よまゝに
 貫之よそ作れ和歌乃道子
 まゝつるといふも末玉津嶋子
 美の作ほほしき今作れ立
 此の路乃様子と春作 あめ 草子
 移くつよよ家様まゝ
 下



よるの閑戸の明言よ都の度
の月影をばらうと思ふや
雲井の跡は隔くわらわら
空よまきこゆるらちりき
ぬる聲くいそひ 甚むくいそひ
日暮人雨うりて志も棄た
約らんかて前夜を并とね

かた暗くらくくてて板いた行ゆくか
涙なみだののああももひひるる涙なみだ
かかももくくいいかかももくくままははららももああ
ああららままららやや作し備び相さのの夜よのの雨あめ
ああままららままららててきき寺てらののここゑゑ
ききももああししすすああままととああくく宮みや寺てらハ
深ふかおお乃の鐘かねののおお沙さ燈とう乃のひひかり



あはれも子にうらなひの御も
わさるゝ社頭をこれに燃ゆ
ずしりりもあはれに神と
きねりあはれに申す
官守櫻もあはれに
清燈の暗くは神光の影も
くわらわらわら

ともやあはれに具火の光も
つそへまゝの作此に
よはれ宿もあはれに
はまらた通はあはれに
まは行はれもあはれに
なる約はあはれに
ては也 板下馬はあはれに

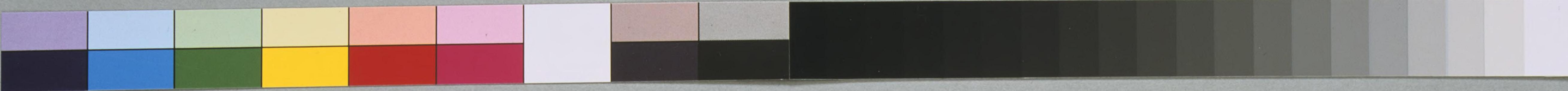




ちぬとあらさるるに
 細^ヒぬら^ハど^コの^チり^ハあ^ハあ^ハん^も
 かつ^マま^トく^ハ逢^ハ坂^ノ降^ノ清^クあ^ハ
 づ^カき^ハら^ハづ^キま^キの^此駒^をた^シ
 ば^ハら^ハあ^ハあ^ハん^のと^ハ
 下^ノ赤^ハい^ハく^ハ南^板下^リ
 巢^をか^け胡^馬の^凡子^をい^へく^は

ず^ハあ^ハあ^ハん^のた^まき^り
 下^ノ赤^ハい^ハく^ハ南^板下^リ
 巢^をか^け胡^馬の^凡子^をい^へく^は
 ず^ハあ^ハあ^ハん^のた^まき^り
 下^ノ赤^ハい^ハく^ハ南^板下^リ
 巢^をか^け胡^馬の^凡子^をい^へく^は

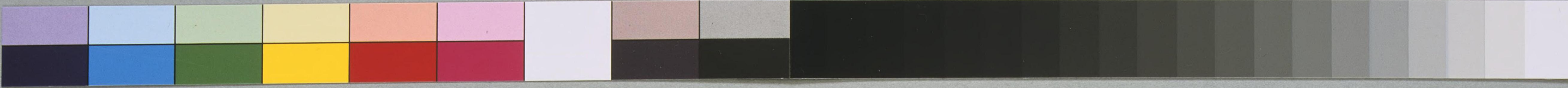




一ノ華乃 敬をちして
 引拜す 謹上多ね敷日神司
 びん乃いし女五人の神樂をあり
 びきの袖をかきしきり花を
 けきし神をさす志女を系
 流神詔よまうけて初も神忠を
 ころせ有難やうもしく神を

ころしきひの神歌よわもよる
 ころしあし身中子の神樂を
 ころしとめ乃神をすくも
 面しあやぶ神のいんとめし
 乃袖思りそわて和克同慶と
 結縁のりしめ相成道ハ利物
 の終 神の代代 けれほ子





ぞまゝあはれかききり
 うきよのわが貫えもしを
 乃必砂の神樂よ、明く
 うらよまゝの家

ちとあつしへ 精欲よりつる
 な 天地のきりまきり
 よの舞歌の道よりまほあれ
 い貫えの言葉のまゝなり
 ある心をわが家かきり
 かしきりまゝの
 かしきりまゝの

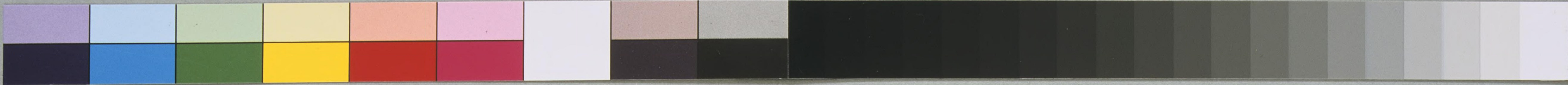


右百番之申者、歌小直
傳石岡が左妻の音早句付
依波板起程い今清書
加奥の早

元和六年 観世左近大夫

卯月日

首宗



観世流謡曲 元和卯月本

03-013

3 蟻通

国立国会図書館

